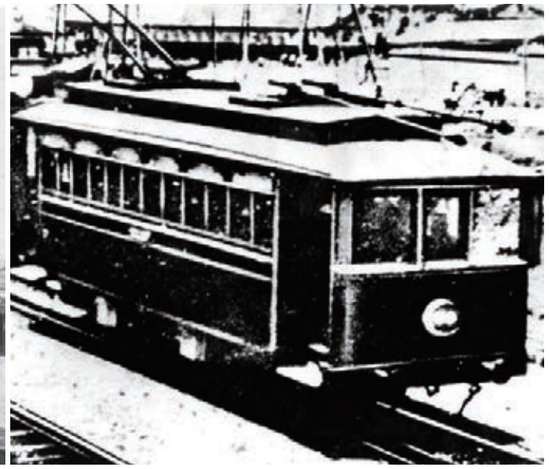
01 鉄道技術の導入

明治時代初期の日本には、鉄道や電気、ガスなどの新しい技術・文明がもたらされ、都市空間や人々の生活は一変しました。明治5(1872)年、新橋―横浜間に日本初の鉄道が開通し、その後の鉄道の発達とともに長距離の移動時間が大幅に短縮しました。明治37(1904)年には甲武鉄道によって飯田町―中野間が電化され、これ以降、鉄道の電化は急速に進みました。明治39(1906)年の鉄道国有法の公布以降は、明治42(1909)年に品川―赤羽間、池袋―田端間でも電車の運転が始まりました。明治期を通して鉄道網が整備されていき、大正期以降の都市化の展開を支える礎が築かれました。

新橋―横浜間に日本初の鉄道開通
明治5(1872)年
浮世絵「横浜鉄道蒸気出車之図」に描かれた開業当初の鉄道。同駅間は当時29km、所要時間53分で運行したとされています。
出典:ウィキメディア・コモンズ



蒸気機関車、そして電車の登場
明治初期は車両を製造することは難しく、イギリスから輸入された車両が活用されていました。左は鉄道院1290形蒸気機関車「善光」。
また、明治37(1904)年の飯田町―中野間において鉄道で初めて電車が用いられました。このときに導入された車体10mほどの四輪単車が、その後の国鉄電車の原型となりました。
(左)出典:日本国有鉄道工作局編『車両の80年 国鉄80年記念写真集』、(右)提供:杉並区

明治期の鉄道網の変遷
(左:1880年代　右:1900年代)
新橋―横浜間の開業以降、明治16(1883)年に上野―熊谷間、明治18(1885)年に品川―新宿―赤羽間(現在の山手線の起源ともいえる品川線)、明治22(1889)年に新宿―立川間が開業するなど、明治期を通して続々とネットワークが構築されていきました。
*地形の海岸線は、明治末期[明治42(1909)年]当時の状況を示しています。
出典:東京都交通局『東京都交通局60年史』及び国土交通省関東地方整備局「東京港の変遷」を参考に作成。

新橋駅の歴史

●明治5(1872)年、新橋―横浜間に我が国初めての鉄道が開通しました。鉄道の発着駅として新橋駅が選ばれた理由としては、武家屋敷の跡地で鉄道駅整備のためのまとまった敷地が確保しやすかったことや、築地の外国人居留地、繁華街の銀座にも至近であったことなどが挙げられます。
●明治22(1889)年には東海道本線が神戸駅まで開通し、新橋駅は国土の重要幹線における東京側のターミナル駅として発展しました。その後、大正3(1914)年に東京駅が開業して東海道線の起点が変更され、新橋駅は「汐留駅」に改称されるとともに、それまでの烏森駅が新たに「新橋駅」に改称されました。汐留駅は、鉄道の玄関口から貨物ターミナルへと変化を遂げますが、その後、貨物輸送の中心が鉄道からトラックへと移り変わる中で、その役割を終えました。

新橋停車場　『東京の名所』都立中央図書館蔵
明治5(1872)年竣工。木造石張りの西洋建築で、アメリカ人建築家ブリジェンスによって設計されました。